

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	文学部
評価基準 1	理念・目的
点検・評価項目(1)	1-1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
評価の視点	理念・目的の明確化
	設置の主旨や歴史からみた理念・目的の適切性
	個性化・独自性、国際化への対応
点検・評価項目(2)	1-2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
評価の視点	構成員に対する周知方法と有効性
	社会への公表方法
点検・評価項目(3)	1-3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

1-1	文学部は、以下のように理念・目的を定めている。 文学部は、人文諸科学に関する学識を修めるを通し、広い識見と深い洞察力をもち、人間の生き方やあり方を考究し、多様な現代社会ならびに国際社会の諸問題に対応できる人材を養成することを目的とする。 ・文学部日本文学科は、日本文学に関する学識を修め、多様な現代社会に対応できる能力を有する人材の養成を目的とする。 ・文学部中国学科は、中国古典学に関する学識を修め、中国文化圏に対する深い洞察力と国際感覚を有する人材の養成を目的とする。 ・文学部英米文学科は、英語圏の文学・語学・文化に関する学識を修め、国際語としての英語の基盤の上に立った広い見識を持つ人材の養成を目的とする。 ・文学部教育学科は、教育学に関する学識を修め、教育に関する知識・技能について、理論的実践的に優れた能力を有する人材の養成を目的とする。 ・文学部書道学科は、書道学に関する学識を修め、書表現および書学に秀でた人材の養成を目的とする。
1-2	大東文化大学ホームページへの掲載、文学部履修の手引や大学案内（CROSSING）への記述、各学部・学科ガイダンスでの説明、教授会や学科会議での告知、受験生向けのオープンキャンパス、相談会、高等学校への出前授業などで周知している。 文学部の理念・目的が構成員にどの程度浸透しているか、周知の有効性について特に検証はしていない。
1-3	毎年、文学部教務委員会（学部・各学科）において、「理念・目的」の適切性について、検証する機会を設けている。

【効果が上がっている事項】

1-1	学則に「理念・目的」を掲げた。
1-2	「理念・目的」の文章の推敲、再確認等を通し、学部・学科の構成員の意識が高められる。社会への公表は「現状説明」の通りである。
1-3	文学部教務委員会を核に、年度ごとの検証を行うようになった。

【改善すべき事項】

1-1	
1-2	年度初めには、学部教授会において、確認・検証を必ず行うような体制が求められる。
1-3	教務委員会において協議し、教授会において承認する手続きがとられることを常に確認する。

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

大東文化大学ホームページ、大学案内（CROSSING）、文学部履修の手引

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標		目標達成の指標となるもの	評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	文学部は、現在、五学科より成っているが18歳人口の減少や大学教育に求められる社会的要請の変化によ	毎年の入学志願者の変化、卒業生満足度の調査、就職率など					

学部

	<p>て、今後、定員削減等を含む何らかの改編及び大学全体の再編成に関わって行かざるを得ないと考えられる。「理念・目的」に照らし現状を検証しつつ、社会的要請に応じていく努力を継続する。「理念・目的」が適切に設定されているか、それらが構成員に周知されているか、について検証する。</p>							
<p>14年度 目標</p>	<p>入学志願者数の前年度比の検証と対策学部教授会において、意見を集約する。</p>		→					